

■羅生門①

「次」の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ある日の暮れ方のことである。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。

広い門の下には、この男のほかに誰もいない。ただ、所々丹塗りの剝けた、大きな円柱に、蟋蟀が一匹とまっている。羅生門が、朱雀大路にある以上は、この男のほかにも、雨やみをする①市女笠や採鳥帽子が、もう二、三人はありそうなものである。それが、この男のほかには誰もいない。

なぜかというところ、この二、三年、京都には、地震とか辻風とか火事とか飢饉とかいう災いが続いて起こった。そこで洛中のさびれ方はひとりではない。②旧記によると、仏像や仏具を打ち砕いたり、その丹が付いたり、金銀の箔が付いたりした木を、道端に積み重ねて、薪の料に売っていたということである。洛中がそのbシマツであるから、羅生門の修理などは、もとより誰も捨てて顧みる者がなかった。するとその荒れ果てたのをよいことにして、狐狸が棲む。盗人が棲む。とうとうしまいには、引き取り手のない死人を、この門へ持って来て、捨てて行くという習慣さえできた。そこで、日の目が見えなくなると、誰でも気味を悪がつて、この門の近所へは足踏みをしないことになってしまったのである。

その代わりまた鴉がどこからか、たくさん集まって来た。昼間見ると、その鴉が、何羽となく輪を描いて、高い鷗尾の周りを鳴きながら、飛び回っている。殊に門の上の空が、夕焼けであかくなる時には、それが胡麻をまいたように、はつきり見えた。鴉は、もちろん、門の上にある死人の肉を、啄みに来るのである。——もつとも今日は、刻限が遅いせいか、一羽も見えない。ただ、所々、崩れかかった、そうしてその崩れ目に長い草の生えた石段の上に、鴉の糞が、点々と白くこびりついているのが見える。下人は七段ある石段の一番上の段に、洗いざらした紺の襖の尻を据えて、③右の頬にできた、大きなきびを気にしながら、ぼんやり、雨の降るのを眺めていた。

作者はさつき、「下人が雨やみを待っていた。」と書いた。しかし、下人は雨がやんでも、格別どうしようという当てはない。ふだんなら、もちろん、主人の家へ帰るべきはずである。ところがその主人からは、四、五日前に④暇を出された。前にも書いたように、当時京都の町はひとおりにらず衰微していた。今この下人が、永年、使われていた主人から、暇を出されたのも、実はこの衰微の小さなdヨハにほかならない。だから「下人が雨やみを待っていた。」と言うよりも「雨に降り込められた下人が、行き所がなくて、(A)に暮れていた。」と言う方が、適当である。その上、今日の空模様も少なからず、この平安朝の下人のSentimentalismeに影響した。申の刻下がりから降り出した雨は、いまだに上がる気色がない。そこで、下人は、何をかおいても差し当たり明日の暮らしをどうにかしようとして——いわばどうにもならないことを、どうにかしようとして、とりとめもない考えをたどりながら、さつきから朱雀大路に降る雨の音を、聞くともなく聞いていたのである。

問1 二重傍線部 a～d のカタカナを漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで記せ。

問2 空欄Aに入る最も適当な語句を漢字二字で記せ。

問3 傍線部①と同じ表現技法を用いた文を、次のア～オから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 人生の黄昏を迎える。      イ 花のような笑顔を見せた。      ウ あのダークスーツが責任者だ。
- エ 大自然の懐に帰る。      オ 柵からぼたもちそのものだ。

問4 傍線部②の「旧記」は、作者芥川がこの作品の典拠にした古典だが、その作品名を記せ。

問5 傍線部③の表現から、下人はどのような年ごろの男だとわかるか、答えよ。

問6 傍線部④の意味を記せ。

- ア 本文の特徴として適当でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。
- イ 色彩感覚に優れた表現が多用された視覚的な文章である。
- ウ 作者による論理的な分析が、古い話に近代的な意味を与えている。
- エ 主人公の独白によって、その心理が詳細に語られ読者を引き込む。

【解答】(50点満点)

問1 a||わざわ    b||始末    c||かえり    d||余波 (各2点)

問2 途方 (6点)

問3 ウ (6点)

問4 今昔物語集 (6点)

問5 若い男。 (8点)

問6 仕事を解雇された。 (8点)

問7 エ (8点)

【解説】問3、換喩を答える。ア隠喩、イ直喩、エ活喩(擬人法)、オ諷喩。問5、「にきび」は「若さ」の記号であり、下人が若いことは、今後の展開に必然的な要素である。

■羅生門①

【1】次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ある日の暮れ方のことである。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。広い門の下には、この男のほかに誰もいない。ただ、所々丹塗りの剥けた、①大きな円柱に、蟋蟀が一匹とまっている。羅生門が、朱雀大路にある以上は、この男のほかにも、②雨やみをする市女笠や採烏帽子が、もう二、三人はありそうなものである。それが、この男のほかには誰もいない。

なぜかというところ、この二、三年、京都には、地震とか辻風とか火事とか飢饉とかい災いが続いて起こった。そこで洛中のさびれ方はひととおりではない。旧記によると、仏像や仏具を打ち砕いて、その丹が付いたり、金銀の箔が付いたりした木を、道端に積み重ねて、薪の料に売っていたということである。洛中がその始末であるから、羅生門の修理などは、もとより誰も捨てて顧みる者がなかった。するとその荒れ果てたのをよいことにして、狐狸が棲む。盗人が棲む。とうとうしまいには、引き取り手のない(X)を、この門へ持って来て、捨てて行くという習慣さえできた。そこで、目の目が見えなくなると、誰でも気味を悪がって、この門の近所へは足踏みをしないうことになってしまったのである。

その代わりまた鴉がどこからか、たくさん集まって来た。昼間見ると、その鴉が、何羽となく輪を描いて、高い鴟尾の周りを鳴きながら、飛び回っている。③殊に門の上の空が、夕焼けであかくなるときには、それが胡麻をまいたように、はつきり見えた。鴉は、もちろん、門の上にある死人の肉を、啄みに来るのである。——もともと今日は、刻限が遅いせいか、一羽も見えない。ただ、所々、崩れかかった、そうしてその崩れ目に長い草の生えた石段の上に、鴉の糞が、点々と白くこびりついているのが見える。下人は七段ある石段の一番上の段に、洗いざらした紺の襖の尻を据えて、右の頬にできた、大きなきびを気にしながら、④ぼんやり、雨の降るのを眺めていた。

作者はさつき、「下人が雨やみを待っていた。」と書いた。しかし、下人は雨がやんでも、格別どうしようという当てはない。ふだんなら、もちろん、主人の家へ帰るべきはずである。ところがその主人からは、四、五日前に暇を出された。前にも書いたように、当時京都の町はひととおりならず衰微していた。今この下人が、永年、使われていた主人から、暇を出されたのも、実はこの衰微の小さな余波にほかならない。だから「下人が雨やみを待っていた。」と言うよりも「雨に降り込められた下人が、行き所がなくて、途方に暮れていた。」と言う方が、適当である。その上、今日の空模様も少なからず、この平安朝の下人のSentimentalismに影響した。申の刻下がりから降り出した雨は、いまだに上がる気色がない。そこで、下人は、何をかおいても差し当たり明日の暮らしをどうにかしようとして——いわばどうにもならないことを、どうにかしようとして、とりとめもない考えをたどりながら、さつきから朱雀大路に降る雨の音を、聞くともなく聞いていたのである。

問1 傍線部①の表現効果として最も適当なものを、次の①～④から一つ選べ。

- ①晩夏の季節感の強調 ②無人であることと静寂の強調 ③闇と不気味さの強調 ④雨の情景の強調

問2 傍線部②と同じ表現技法を用いた文章として最も適当なものを、次の①～④から一つ選べ。

- ①着物を着た彼女はまるで江戸時代のお姫様だ。 ②学生時代に育んだ友情は、人生の宝石だ。

③道場には黒帯、白帯が一杯だ。 ④マウンド上の彼の姿はバッターの前に立ちはだかる仁王様だ。

問3 傍線部③の表現についてまとめた次の文の空欄に入る最も適当な語句を、後の①～⑤からそれぞれ一つ選べ。

夕焼けの(1)と鴉の(2)の色彩の対比による美的効果とともに、(3)雰囲気的印象づけている。

- ①白 ②黒 ③赤 ④清新な ⑤不気味な

問4 傍線部④に「ぼんやり」とあるが、このときの下人の心境として最も適当なものを、次の①～④から一つ選べ。

①奉公先から解雇を言い渡されたので、これからどうやって生きていけばよいかわからなくなっている。

②天災続きの都にいても生活の目途が立たないので、どこか別の土地に行つて生活を立て直そうと思っている。

③夕方から降り出した雨がなかなかやみそうにないので、早く家に帰りたいといらしている。

④いつもなら何羽も集まっている鴉が今日は「一羽もいないので、どうしたのだろうか」と不審に思っている。

問5 空欄Xに入る最も適当な語句を、次の①～④から一つ選べ。

- ①老婆 ②下人 ③仏像 ④死人

問6 芥川龍之介の作品ではないものを、次の①～⑤から二つ選べ。

- ①「或る女」 ②「友情」 ③「枯野抄」 ④「戯作三昧」 ⑤「河童」

【解答】(50点満点)

問1 ②(6点)

問2 ③(6点)

問3 1①③ 2①② 3①⑤(各6点)

問4 ①(6点)

問5 ④(6点)

問6 ①②(各4点)

【解説】問1、原文に「きりぎりす」と振り仮名があるが、現在のところのこと。晩秋の季節であることが知られる。①は季節が違う。

直前に「この男のほかに誰もいない」とあり、この情景に人間以外小さいものである虫一匹を配置したことで、無人の雰囲気が強められる効果がある。正解は②。暮れ方のことなので③は「闇」が不適。問

2、市女笠や採烏帽子というかぶりものを人々を表しているが、このように、属性の一つを挙げて主体を表す比喩法を換喩法という。①「ま

るで」のように、たとえるものとたとえられるものを直接つなげる方法は「直喩法」。②、④のように、たとえるものとたとえられるものを「まるで」「〜のように」などを用いず直接つなぐ方法は「隱喩法」。問3、鴉は鳥と同じ。本来は「はしぶとがらず」をさし、「鳥」の一種であるが、「鴉」という字が持つ不気味な雰囲気は「鳥」では表現しきれないと考えた上での表記であろうと見られる。鴉は「清新な」雰囲気とは異なるので④は不適。問4、次の段落の内容を押さえる。下人は仕えていた主人から四、五日前に暇を出され、さしあたり明日の暮らしをどうすればよいのかと途方にくれて、雨の音を、聞くともなく聞いていたのである。この内容と合致する①が正解。②は「どこか別の土地に行つて」が本文に書かれていない。③は「早く家に帰りたい」とあるが、ふだんなら帰るべき主人の家があるのだが、今は「行き所がなくて」という状況なので誤り。④は、下人は自分のことで頭がいっぱいで、鴉のことを考える余裕はないので誤り。問5、次の段落に「鴉は、もちろん、門の上にある死人の肉を、啄みに来るのである」とあるのに着目。「狐狸」「盗人」と併記されていることから「仏像」は不適。問6、「或る女」は有島武郎の作品。「友情」は武者小路実篤の作品。「枯野抄」は、松尾芭蕉の終焉を、それを見守る門人たちの心理とともに描いたもの。「戯作三昧」は滝沢馬琴の一日を描いたもの。「河童」はある精神病患者の語る河童の国の生活を描いたもの。

# 羅生門①

名前 年 組 番

50

一次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。

- ① 丹塗りの柱。〔 〕 (1点×10)
- ② 大地震が発生する。〔 〕
- ③ 飢饉で死んだ人々。〔 〕
- ④ 勉強の習慣をつける。〔 〕
- ⑤ 国の経済力が衰微する。〔 〕
- ⑥ 雨が上がる気色がない。〔 〕
- ⑦ 局所麻酔を行う。〔 〕
- ⑧ 困難な状況に逢着する。〔 〕
- ⑨ 食べ物の腐爛した匂い。〔 〕
- ⑩ 犬は嗅覚が鋭い。〔 〕

二次の語句の意味を後のア～コから選び、記号で答えよ。

- ① 暇を出す 〔 〕 (2点×9)
- ② 途方にくれる 〔 〕
- ③ とりとめもない 〔 〕
- ④ 片をつける 〔 〕
- ⑤ 息を殺す 〔 〕
- ⑥ たかをくくる 〔 〕
- ⑦ おぼろげ 〔 〕
- ⑧ 暫時 〔 〕
- ⑨ 語弊がある 〔 〕

二次の傍線部分のカタカナを漢字に直せ。

- ① 屋根をシユウリする。〔 〕 (1点×10)
- ② 日が暮れるコクゲン。〔 〕
- ③ カクベツの取り扱い。〔 〕
- ④ 台風のヨハで風が強い。〔 〕
- ⑤ 空モヨウをうかがう。〔 〕
- ⑥ タイギそうに振り向く。〔 〕
- ⑦ 備えあればウレいなし。〔 〕
- ⑧ ムゾウサに置かれた彫像。〔 〕
- ⑨ 日光が当たるハンイ。〔 〕
- ⑩ キョウフ心をあおる。〔 〕

- |   |         |   |       |
|---|---------|---|-------|
| ア | まとまりがない | イ | 困りはてる |
| ウ | 少しの間    | エ | 見くびる  |
| オ | 誤解を招く   | カ | 始末をする |
| キ | はつきりしない | ク | やめさせる |
| ケ | じつとしている | コ | 次第に   |

三次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。

- ① 政治家の回顧録を読む。〔 〕 (2点×6)
- ② 昔を顧みて感慨にふける。〔 〕
- ③ 遠慮がちに話す。〔 〕
- ④ 相手の立場を慮る。〔 〕
- ⑤ ガスの臭気に鼻をおおう。〔 〕
- ⑥ 魚臭い匂いがする。〔 〕

# 羅生門②

名前

年 組 番

50

一 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。

- ① 大股で歩く。〔 〕 (1点×10)
- ② 動物の死骸。〔 〕
- ③ 憎悪の念を強くする。〔 〕
- ④ 検非違使の庁の役人。〔 〕
- ⑤ 存外、平凡な答えだ。〔 〕
- ⑥ 侮蔑の目に耐える。〔 〕
- ⑦ 蛇ににらまれた蛙。〔 〕
- ⑧ 蹴倒して逃げていった。〔 〕
- ⑨ 白髪頭の老人。〔 〕
- ⑩ 写真を逆さまに貼る。〔 〕

四 「 」「 」内に漢字一字を補い、対義語を完成させよ。

- 《対義語》 ①得意↕〔 〕意 (2点×2)
- ②平凡↕〔 〕凡

二 次の傍線部分のカタカナを漢字に直せ。

- ① ロウバに席を譲る。〔 〕 (1点×10)
- ② なんのミレンもない。〔 〕
- ③ アワてふためく。〔 〕
- ④ 相手をハラいのける。〔 〕
- ⑤ エンマンに解決する。〔 〕
- ⑥ ナワで縛られた泥棒。〔 〕
- ⑦ クチビルをかむ。〔 〕
- ⑧ ホし柿を食べる。〔 〕
- ⑨ 階段をかけ下りる。〔 〕
- ⑩ ユクエ不明。〔 〕

- 五 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。
- ① 鶏の脚のような腕。〔 〕 (2点×8)
  - ② くわしい脚注。〔 〕
  - ③ 脚立に上がる。〔 〕
  - ④ 鋼のような強い体。〔 〕
  - ⑤ トラックで鋼材を運ぶ。〔 〕
  - ⑥ 念願が成就する。〔 〕
  - ⑦ 実験が成功する。〔 〕
  - ⑧ 土地成金。〔 〕

三 次の傍線部分のカタカナを漢字と送り仮名(ひらがな)に直せ。

- ① 興奮をサマシた。〔 〕 (2点×5)
- ② 屋上からミオロス。〔 〕
- ③ スルドイ目をした虎。〔 〕
- ④ 魚をトラエた熊。〔 〕
- ⑤ 冷たい仕打ちをウラム。〔 〕